

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【大阪メトロ堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ(西へ)。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進(南下)。1つ目の信号(西尾倉庫・みなみの森保育園の手前)で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【地下鉄堺筋線・京阪「北浜駅」から】

26番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号(Y字路の交差点「西天満1東」)を横断せずに右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進(北上)し、2つ目の信号(左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板)で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



2025年6月9日撮影
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 宮本三恵子



最新刊!『シネマ57』
2025年7月出版
定価1,200円+税



『がんばったで! 51年』
定価2,200円+税
2025年秋出版予定!

令和のコメ騒動が続く中、暑中お見舞い申し上げます。

第1 トランプの思考経路は?米国はどこに?

1) 大統領選の圧勝と共和党が上下院とも過半数というトリプルレッド下で「トランプ2.0」が1/20に発足した。しかし、プーチン大統領、習近平国家主席に比べると任期の4年も中間選挙までの2年も短いから、選挙の洗礼が待ち受ける民主主義国は大変。「就任100日」で支持率も急下落したから、要注意だ。
2) 「24時間以内に終結させる」と豪語したウクライナ戦争への仲介では、ゼレンスキー大統領への圧迫はできて、P大統領との交渉では明らかに劣勢!追加制裁もできないまま、今さら「プーチンは狂ってきた」と嘆いても!「和平交渉は俺の手に負えない」と自覚すれば、堂々と「俺は知らねえよ」と宣言し、放り投げてしまうシナリオにも現実味が?
3) 6/2のウ露二国間の直接交渉で、露側はウ領土の1/4の割譲、ウ危機の根本原因の克服(=NATOへの加盟の断念)等、事実上の降伏要求を示したが、ウ側の反響は如何に?6/1のウ軍のドローンによる露空軍基地への一斉攻撃とその成果はお見事!プーチン大統領はハリウッド映画のようなこの「クモの巣作戦」への反撃を表明したが、「大統領の対応は?」
4) 自らを「タリフマン」と称するT氏がMAGA(Make America Great Again)の切り札と位置付けた「関税政策」も、当初に投じた「高めの球」を見逃されると、以降は各国との交渉がバラバラなら、中国相手の交渉では屈辱感が漂うほどT流のディールは不成功!日本製鉄によるUSスチール買収問題でも、ド派手な報道の割には成果は不明だ。そもそも関税の圧力だけでMAGAの実現は不可能だし、アメ車の復活は元々無理筋だ。T氏は「国家安全保障上の脅威」を理由に、議会の承認を要せず大統領権限を行使できる「国家非常事態宣言」を既に8本も発令。議会の承認なしに出せる「大統領令」は既に100本近い乱発ぶりだ。関税を巡る訴訟も多発しているから、この混乱は4年の任期満了まで続くだろう。

第2 ハーバード大学への圧力は暴挙!

1) 自らの岩盤支持層を熟知するT氏は、民主党のヒラリー・クリントン等への「反エリート主義」が強烈だが、5/22のハーバード大学

の留学生受入れに必要な認可停止の発表にはビックリ!これは大学の財政基盤を揺さぶり、政権の意に反したエリート大学への圧力を強める狙いだ。BC3世紀の始皇帝による「焚書坑儒」にも比すべき暴挙だ。
2) H大学は「政権の決定は違法だ」と直ちに提訴。ボストンの連邦地裁は5/23「差止め命令」を出したが、T氏は「H大学が反ユダヤ主義的であることは誰もが知っている」と強い敵意を維持。裁判の長期化は必至だ。60年代後半の学生運動の実践者である私には、純粋で理想に燃えた米国の大学生や留學生がパレスチナ自治区ガザでの戦闘が強まる中、親パレスチナ、反イスラエルの活動に走る気持ちが十分理解できる。T氏の主張は「H大学は反ユダヤ主義を許容した」だが、H大学は「政権による助成金の凍結は憲法に保障された学問の自由と大学の自治を侵害する」と反論。東大・京大等の日本の有力大学もH大学の留学生受入れと転籍に動いている。
3) 日本の学生運動は内ゲバ闘争に突入する中で国民の支持を失っていたが、イスラエルによるガザ侵攻を巡って各大学内で深刻な対立を生んでいるのは事実。T政権がもう一つの攻撃材料としている「中国共産党の浸透」も「中国が党有力者の親族らを含めて、多くの留学生・研究者をH大学に送り、共同研究を進めている」という意味では事実だから問題の根は深い。もっとも、この問題を巡るT政権とH大学の対立を一番喜んでいるのはロシアと中国だ。裁判闘争を含めて長期化必至のH大学を巡る諸問題は深刻だ。学問の自由は米国の自由の源泉であり象徴だから、その活力を奪うことはMAGAの精神にも反する。T氏の再考を求めたい。

第3 ガザ地区も泥沼化?解決は困難?

1) イスラエルの時勢は、親イスラエルでネタニエフ首相に顔の利く(?)T大統領なら就任後すぐにガザ地区の仲介にも成功!そんな楽観論は、人道支援の回路すら封鎖され、子どもたちの死亡が相次ぐ中で粉砕されたが、5月末のイスラエルによるガザの75%制圧計画の発表にはビックリ!
2) 軍がガザの75%を占領し、残り25%の領域

に住民を「強制移住」させる方針の狙いは、イスラム主義組織「ハマス」の壊滅だが、2005年の撤退以来の“再占領”の強行は暴挙だ!

第4 ドイツはショルツからメルツへ!

1) きしむ同盟、低迷する経済、広がる排外主義。そんな課題が山積するドイツでは、2月の総選挙で第一党になった中道右派「キリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)」の党首メルツを首相に選出。第3党の中道左派「社会民主党(SPD)」との連立政権が発足した。イタリアでは、極右政党「イタリアの同胞」を率いるメローニ政権が22年10月に発足したが、ドイツでは極右政党「ドイツのための選択肢(AfD)」は総選挙で第2党に躍進したものの、政権には到達できなかった。メルケル長期政権の下で「欧州の盟主」と呼ばれていたドイツも、近時は「欧州の病人」と呼ばれるほど経済は低迷中。そんなドイツをショルツ前首相から引き継いだメルツ政権の門出は、ウクライナ戦争とNATOのあり方、トランプ関税への対処等々、難問ばかりだ。
2) そう思っているところ、まづ打ち出したのが憲法改正と国防費の大幅増額。これはトランプ大統領の「安売ただ乗り論」批判をかわすためだが、同様の課題を抱える日本とは異質の動きである上、スピードがメチャ速い。
3) 脆弱な基盤、極右の台頭の下で多難な船出をしたメルツ政権は、続くフランスのマクロン大統領との会談で、独仏両国が防衛面で欧州を主導し、欧州の自立を目指す姿勢を確認した。欧州の戦略的自立を持論とするマクロンと、「欧州は段階的に米国依存から脱却しなければならない」と訴えるメルツが独仏関係を一新すれば、欧州全体のプラスは明らかだ。さらにメルツは「ウクライナに米欧が供与している長射程兵器の射程制限を撤廃」し、「ウクライナはロシア国内の軍事拠点を攻撃することで、自国を防衛できるようになる」と述べたからすごい。
4) メルツ首相の急変(突出)ぶりに私が驚愕したのは、彼が5/26、パレスチナ自治区ガザへのイスラエルの攻撃を「イスラム組織ハマスのテロに対する戦いとしてもはや正当化することはできない」と異例の批判をしたこと

だ。ナチスドイツによるホロコースト（ユダヤ人大虐殺）の加害責任から、ドイツはイスラエルの安全を守ることは「国是」の立場を取り、ガザを巡る国際的な批判が高まる中でもイスラエル批判は避けてきた。この発言はガザ地区での人道危機が深刻化する中、「これ以上看過できない」と判断したためだが、さてイスラエルの反応は？

第5 韓国大統領は尹錫悦から李在明へ！

1) 昨年12月の「非常戒厳の宣布」にはビックリ！その混乱から半年、6/3の大統領選挙は79.4%という高投票率の中、予想通り「共に民主党」の李在明（イ・ジェミョン）が「国民の力」の金文洙（キム・ムンス）に勝利！李氏は「分裂の政治を終わらせる大統領になる」と述べたが、その船出は不安だらけだ。

2) 1987年の民主化以降、保守と左派が政権交代を繰り返してきた韓国の民主主義はもともと脆弱。5年任期で一期限りという制度に疑問がある上、北朝鮮を巡る左右の対立は深刻。内乱罪や非常戒厳は論外だが、朴槿恵、尹錫悦（ユン・ソンニョル）と2人も続いた保守派大統領任期中の罷免は超異例！1.0を下回る先進国最低の出生率は、深刻な経済格差の広がりと各界各層での分断の広がりの象徴だ。

3) 親北の李政権は米韓同盟を土台に、日米韓の連携を重視する尹政権の踏襲を示したからひと安心だが、さて？他方、韓国の若者たちは全般的に親日的。韓流ドラマは下火だが、アニメや歌の交流はなお盛んだ。日本人の韓国旅行も好調。しかし、問題はそんな表面ヅラではなく、東アジアにおける対北朝鮮を軸とした日米韓のあり方だ。今日のウクライナは明日の台湾、そして明日の韓国か？

第6 就任1年、頼清徳総統の台湾は？

1) 3年半にも及ぶウクライナ戦争の行方とトランプ大統領の心もとなない（？）と平和仲介の展開を見て、「明日はわが身」と最も心配しているのは台湾だ。日本も少しは当事者意識を持ってドイツを見習う必要があるが、その「平和ボケ」は深刻！お笑い芸人を並べた情報番組で中居くんの性暴力やフジテレビの隠蔽体質を叩くのもいいが、もっと真剣に議論すべきテーマがあるのでは！

2) 就任1年となる5/20頼総統は、「侵略者の脅迫を受けている」、「世界の同志国と積極的に協力して抑止力を発揮し、戦争への備えによって戦いを回避する」と述べた。中国からの軍事的・経済的圧力の他、トランプ関税の影響もあり、好調だった頼政権の支持率にも異変が起きている。また、中国が「独立派」とみなす頼政権への外交包圍網はここ1年間で急速に狭まり、正式な外交関係を持つのはパチカンや中米グアテマラなど12カ国に減少している。そんな中、台湾は艦艇や戦闘機など軍力で圧倒する相手に対し、低コストな小型兵器で効果的に対抗する「非対称能力」の強化を急いでいるが、その効用は？

3) 他方、海軍力を強化し台湾への軍事侵襲圧力を強める中国では近時、習近平氏自らが抜擢した人民解放軍の制服組幹部の失脚が相次いでいる。その実態は報道なしだが、中国の権力闘争の激烈さは毛沢東、鄧小平時代から明らかで、近時の人民解放軍内部の大規模な汚職問題は酷いらしい。

4) 60年代には、お盆に公開される戦争映画大作が“あの戦争”を考える糸口になっていたが、そんな昭和は遠くりにけり！しかし、それでいいの？台湾有事は本当に他人事？

第7 参議院選挙に注目！国の行方は？

1) 昨年10月の衆院選挙で少数与党に陥った石破茂政権は7/20投票の参院選挙で正念場を迎える。焦点は与党で125/248の過半数になるか。解散や内閣総辞職により、いつ総選挙が行われるかわからない衆院選挙に比べ、半数を3年に一度改選する参院選挙は、1989年、2007年の自民大敗と2010年の民主の大敗が“政権交代”を助演したが、2013年以降は、16年、19年、22年と自民圧勝が続いた。

2) 非改選75の貯金がある自民は、50議席でも過半数を保てるが、それを割れば衆参両院で少数与党に！焦点は32ある改選一人区での勝敗。野党の選挙協力如何でどちらかが大勝、大敗する例が多いが、国民民主の人気と維新の不振の中、野党候補の一本化は難しそう。最激戦区は大阪（改選数4）。候補者未定の自民に対し、維新は大阪で新人2人を擁立したが、全体的な党勢不振の中、さて結果は？齋藤彦彦兵庫県知事のバワハラ騒動に揺れた兵庫（改選数3）は新人乱立の大激戦だ！

3) 参院選を占う先行指標となる6/22投票の東京都議選では、「政治とカネ」問題の解明が進まない中、都議会自民会派で政治資金パーティー収入の不記載問題が発覚したから、自民党の苦戦は必至！自公の過半数割れの可能性も。1989年の参院選では社会党の土井たか子委員長の「山が動いた」の言葉が流行語になったが、2025年の夏は？

第8 コメ価格は？コメ改革の行方は？

1) 江藤拓から小泉進次郎への農水大臣の交代は石破政権の大ヒット！？「随意契約による備蓄米の大放出15kg・2,000円で販売」という鶴の自声に日本列島が湧いている。これなら自民党の参院選の勝利も！？6/22の国会会期末までに野党が内閣不信任案を出せば、衆議院解散、衆参同日選挙で対抗し、自民大勝の中、小泉進次郎総理の誕生も！？

2) そんな声まで上がるバカ騒ぎにはウンザリだが、「令和の米騒動」を巡って急浮上した、コメの安定供給や減反政策の是非、増産・農家補償・コメ輸入のあり方等を巡るコメ改革の必要性は明確だ。急ぎ足させた石破総理を議長とする「米の安定供給等実現関係閣僚会議」は6/5の初会合で、従来の米の生産調整（＝事実上の減反政策）の見直しと新たな所得補償の検討を始めたが、石破総理の下でかつての郵政民営化問題のような本音の議論が本当にできるの？今後の進展に注目！

第9 日米の関税交渉の行方は？

1) 米国際貿易裁判所が5月末に下したトランプ関税の一部差し止め命令について、控訴審はその効力の一部停止を命じたから、法廷闘争の長期化は必至。関税を巡って乱発された“トランプ砲”について近時急浮上しているのが、「TACO (Trump Always Chickens Out) 理論」だ。これは、関税の脅しをかけてもいつも尻込みをするから株価が上昇するという侮蔑的な意味。「氏は「私が尻込みする？聞いたことがない。その発言は絶対に口にしない。最も不快な質問だ」と反論したが、これが「MAGA」以上の流行語になればヤバイ。

2) 他方、石破総理の特使たる赤沢亮正経済再生相とベッセント財務長官との日米関税交渉は既に4回。米英の関税交渉は一発で合意したが、日本が要求するT関税の全廃は難問だ。6月中旬に予定されている日米首脳会談に向けて本当に合意可能な？

3) 日米関税交渉はカネ＝ディールの問題と共に日米安全保障問題が密接に絡んでいる。「米は日本を守るが、日本は米本土を守らない」と語るT氏は、本当に日米安保条約の内容を理解しているの？NATOは防衛費の対GDP比5%増額に前向きだが、日本はいつまで対GDP比1%に固執するの？米国は本当に日本を守ってくれるの？日本の自主防衛の必要性は？そんな議論とセットにしたT関税への対処が必要だが、赤沢さん、ホントに大丈夫？

4) F-47戦闘機を見に来ないか？T氏は首相への突然の電話でそんな打診を！これは赤沢訪米直前の日米首脳電話協議の話だが、どうもT氏の頭の中はそのレベルらしい。ならば、日米ともに有益な協力として、US スチール絡みの各種投資の他、日本は米国の造船業の復活と海洋国家建設の応援を強力に提案したい。「日米造船黄金時代計画」策定の対米提案は、インド太平洋方面での米国の軍事力、核抑止力維持と日本の安全保障に有益だが、日本の海運業や造船業の復活は大きく国益に沿うも

のだ。赤沢さん、くれぐれもT氏のおだて方を誤らないように！

第10 大相撲、野球

1) 5/28、大関昇進の時と同じ「唯一無二」の口上を述べた第75代横綱・大の里が誕生した。日本人では師匠の稀勢の里以来8年4ヶ月ぶりだが、初土俵から所要13場所というスピード出世はすごい。千秋楽で豊昇龍に敗れ全勝優勝を逃したのは、近い将来の大横綱への神サマの試練！伸び盛りの東西若手両横綱の存在は理想的だが、逆に琴櫻の一人大関は寂しい。若隆景の早期の大関昇進と霧島の大関復帰を期待！元関脇・貴闘力の息子で大鵬の孫にあたる超有望株、王鵬は、もう少しで大化けしそうだからそれにも期待！すると年内に誕生する次の大関は誰？それを焦点に大相撲を楽しみたい。他方、歴代最多優勝45回の元横綱・白鵬（宮城野親方）の日本相撲協会退職は、貴乃花問題と同じ相撲界の悲劇。相撲界の人間関係のゴタゴタは根が深そうだ。

2) 大リーグでは、ドジャースの大谷翔平の規格外の活躍に目が奪われるが、佐々木朗希投手の前半の活躍はお見事！既に6勝の山本由伸はエース級だ。パドレスのダルビッシュ有は故障で立ち遅れたが、メッツの千賀滉大、エンゼルス系の菊池雄星、パドレスの松井裕樹の他、新規参入したオリオールズの菅野智之も大活躍！カブスの鈴木誠也も絶好調！日本人大リーガーとして孤軍奮闘していた野茂英雄の時代はるか昔。今や大リーグは優秀な日本人選手の格好の「稼げ場所」に！

3) 日本のプロ野球はソフトバンクの主力選手の相次ぐ故障と巨人の岡本和真の故障のため、セパ両リーグとも大混戦！パでは新庄監督の良き指導を受けた日ハムの急成長と、安い年俵と厳しい練習で予想以上の健闘を続ける広島が立派。他方、岡田時代以上の豊富な戦力を揃えながら、冴えない藤川球児采配の下でライラカさせられているのが阪神T。交流戦で日ハムやロッテ・楽天・オリックス等に叩かれた上、後半戦で岡本が復帰してきた巨人に前半戦のリベンジをされたら、再び優勝は遠くなるのでは？

第11 囲碁・将棋

1) 囲碁界では赤字経営が続く日本棋院が3月、「年6人の選抜試験合格枠を2028年から4人にする」と発表！プロを目指す子どもとその家族は衝撃、落胆、不安に揺れている。プロを目指す院生は「囲碁界の宝物」と呼ばれているが、30年来の赤字基調に悩む囲碁界はもはや打つ手がなくなったらしい。成績不振に伴う強制引退の制度がある将棋界は棋士171名だが、引退が棋士の意向に任される囲碁界は357人と倍以上だから、そこへのメスを含め、要検討！満員御礼が続く日本相撲協会や日本ハムの札幌誘致に成功した日本野球機構（NPB）のように、様々な工夫で“稼ぐ体質”にできないの？「子どもたちが犠牲」との保護者の反発や「基界の衰退を招く」との囲碁ファンの声には賛成だ。

2) 名人戦では22歳の藤井聡太が4勝1敗で永瀬拓矢九段を下し七冠をキープした。他方、『NHK杯テレビ将棋トーナメント』を50年以上観続けている私は、学生服姿でデビューした羽生善治四段の姿をよく覚えているが、それははるか昔の昭和の時代。そんな彼も今や54歳。彼の日本将棋連盟会長職への就任には驚いたが、一期限りで引退し、6/6には清水市代“女流七段”が新会長に選出された。初の女性会長への期待も大きい。クイーン白玲の資格を得た女流棋士が棋士編入できる制度の実現など、“羽生改革”はお見事！奪った太刀数999本の弁慶は1,000本目で牛若丸に敗れたが、タイトル獲得数99の羽生九段にも最後の力を振り絞って100を目指してもらいたい。

2025（令和7）年盛夏（2025年6月9日記）

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

事務所と坂和章平弁護士の近況報告

第1 弁護士業務の現状と業務提携のご案内

1) 弁護士業務の数は減ったものの、昔からの依頼者、友人からの相談や依頼があると嬉しいもの。また中国人からの不動産に関する相談が増えている。具体的な案件は坂和宏展弁護士との共同受任になるが、そこに至らない相談案件は自分自身で元気に取り組んでいる。なお、北海道の某事件の最終報告はしばらく先になりそうなので、その時のお楽しみに。

2) そんな状況下、コートビル 101 号室に入居している、株式会社神栄不動産(代表者 山本純也)と業務提携を行うことに。これは、近時増加している不動産の購入・売却業務や不動産関連のさまざまな業務を共に専門的に処理する上で、山本氏が有能な人材であると確信したためだ。そこで今後の当事務所の業務提携者として、(別紙)のとおり、山本氏の紹介をしておく。

第2 健康状態の報告

1) 2024 年 9 月に発見された肺がんは早期発見だったため、10 月の 1 週間の入院手術で順調に回復。2025 年 4 月の 6 か月検診を経て、今後は 1 年ごとの経過観察で OK に。

2) 2015 年 9 月の大腸がん手術、2016 年 11 月の胃がん手術も無事 10 年を経過。その後は胃カメラと大腸内視鏡検査を定期的に行い、2025 年 4 月 17 日には両者を同時に実施したから、少なくとも今後 1~2 年間は安心だ。

3) 心配なのは緑内障と網膜色素変性症。これは眼圧を下げる目薬と数か月に一度の視野検査、眼底検査等の経過観察で様子を見る他なし。映画鑑賞は近眼用、読書や書面作成は老眼用、自転車乗車時はサングラスと眼鏡の使い分けが面倒だが、それも仕方なし。

4) 近時よく通っているのが歯科。入れ歯なしの歯並びに自信を持っていた私だが、近時、飴玉やせんべいの間食が増えたせいか、歯茎の弱体化や虫歯がチラホラと。これも早めの治療が不可欠だから、真面目に歯医者通いを続けている。

5) 若い頃は弁護士会の定期健康診断の「異常なし」の診断で安心していたが、76 歳ともなればどこの検査を受けても問題ありの数値ばかりになる。そのため、消化剤や高血圧の薬等々、夕食後に飲む薬の種類は多い。他方、「カラダスキャン」による健康年齢測定はもともと甘く算定されているのだろうが、その数値はすべて順調。肉体年齢は何と 53~55 歳だ。あと 5 年、10 年と人間の欲望にはキリがないがあまり多くを求めず、自然体で自分の身体や健康状態と付き合っていきたい。

第3 講演-幸田町職員向け研修「Hint 会議」(2/7)

1) 2024 年 7 月から愛知県額田郡幸田町の顧問弁護士に就任した。これは、私が三重県の某市で施行された市街地再開発事業に関連する事件を担当した時の人脈によって実現したものであるから嬉しい。多人数が関与する大事件を長期間にわたって処理し、それなりの結果を出せば、それが次の相談や依頼につながることの典型だ。

2) 名古屋駅から約 45 分の、JR 東海道本線の幸田駅にある、人口 4.2 万人の幸田町では 10 件の土地区画整理事業が終了し、現在 3 件の事業を施行中。私の任務は、幸田町のまちづくりのあり方についての問題点を明らかにし、その指針を示すことだ。

3) 最初に企画されたのは、管理職向け(約 40 人参加)の「Hint 会議」。昨年 11 月の予定だったが、肺がん手術のために延期され、2025 年 2 月 7 日に実施。テーマは、「まちづくりの法と政策—



幸田町のまちづくりと区画整理の活用」だ。幅広い分野にわたる膨大なレジメを猛烈なスピードで完了。今後はメールや電話であらゆる相談に対応したい。しゃべるのは大好きだから、また別のテーマでの講演会、研修会にも期待。

第4 執筆活動(1) 新日本法規出版の加除本

1) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は、7/16 に名古屋での編集会議にリモートで参加した。夏休み中に原稿を執筆し、年内に追録 61 号~が発行される予定だ。

2) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、10 月~12 月に、現在の情勢に合わせた加筆や修正を行い、追録 59・60 号が 2 月に、追録 61 号が 3 月に発行された。来年度の追録発行に向けては、現在、情報収集中だ。

3) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、「災害ケースマネジメント」、「防災拠点自動車駐車場」「防災分野における地方公共団体と郵便局の連携」の他、昨年 8/8 に運用開始後、初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報」など、新設 28 問を執筆し、補正 41 問の加筆・修正をした。これらは 12 月に追録 76・77 号として、1 月に追録 78~80 号として発行された。ネタは常に新聞等で情報収集をしているため、たくさんの新設問を執筆中。

4) 新日本法規の WEB サイト「法苑 WEB」の「始皇帝モノは面白い。」の連載は、「その 2」(=入門編は『キングダム~戦国の七雄』から)が 1/8 にアップ (<https://www.sn-hoki.co.jp/articles/article3842310/>)。「その 3」(=応用編(1)『大秦帝国』シリーズ)が 5/14 にアップされた (<https://www.sn-hoki.co.jp/articles/4037341/>)。4 回目の連載原稿は現在執筆中で、9/10 にアップ予定だから楽しみに。

第5 執筆活動(2)『シネマ 57』を出版

赤字出版と在庫管理に反対する事務員の意見に抗して、私は『シネマ 56』に続いて『シネマ 57』の出版を断行! 巻頭特集は真田広之への讃辞だからこりゃ必読!

第6 執筆活動(3)『がんばったで! 51 年』も秋に出版

私は 1974 年 4 月弁護士登録、79 年 7 月独立、01 年 4 月コートビルへ移転、そして 25 年 3 月末で弁護士 51 年だ。他方、『がんばったで! 31 年』の出版が 05 年。その後の『がんばったで! 40 年』『がんばったで! 45 年』に続いて、遂に『がんばったで! 51 年』を印刷に回した。約 650 頁の大著になったが、人生 76 年、弁護士 51 年の集大成だからやむなし。秋には店頭に並ぶので、ぜひ皆さんに読んでもらいたい。

第7 76歳の誕生日(1/26)(写真A)

2015 年の大腸がんの手術以降、誕生日祝いの規模は縮小し、事務局からの実用品に特化したお祝いとケーキは逆に定着化。今年は LUGH(ルー)の「魔法瓶ブランケット」で、近時のヒット商品の一つだ。2025 年 3 月末で弁護士 51 周年が満了したが、それをここまで支えてくれた事務局に心から感謝!

第8 大阪天満宮へ初詣(1/2)(写真B)

好天气に恵まれた元旦の大阪天満宮は人でいっぱい! そこで 2 日の早朝、散歩を兼ねて境内と繁盛亭の周辺をゆっくりと散策。写真撮影もしっかりと!



【写真A】76歳の誕生日



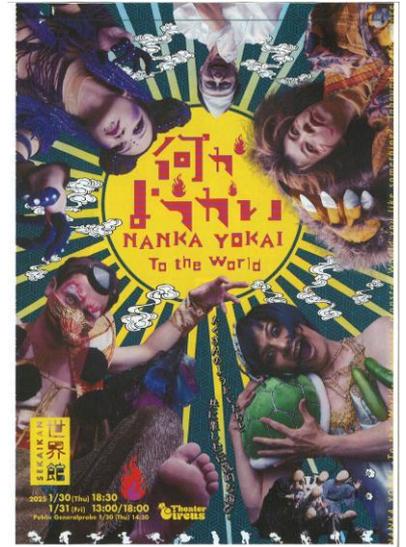
【写真B】大阪天満宮へ初詣



【写真①】2024.12/30
王少鋒先生、笑音さん母娘と



【写真②】1/22 中国駐大阪
総領事館の迎春レセプションにて



【写真③】1/30 『NANKA YOKAI
～何かようかい To the World～』を



【写真④】2/9 「Live Milonga Tiempo
de Tango (タンゴの時間)」に参加



【写真⑤】3/12 広報アドバイザー
交代式で感謝状を



【写真⑧-1】4/8
“和・合”之声音乐会を鑑賞



【写真⑥】3/29 西天満お花見会で
伊地知監督、小川プロデューサーと



【写真⑦】4/5 日中友好協会のお花見会が毛馬桜之宮公園にて



【写真⑧-2】4/8
終了後の舞台挨拶に大集合！



【写真⑨】4/24 江西省の映像
扇町ミュージアム「扇町シネマ」にて



【写真⑩-1】5/2
甲子園球場入口にて



【写真⑩-2】5/2
阪神 VS ヤクルトのゴールデンチケット

大阪・関西万博特集

ヘリで遊覧 (4/26)



【写真⑪-1】
万博会場と夢洲周辺をヘリで遊覧



【写真⑪-2】万博会場のメインになっている周囲2kmの大屋根リングとその内部をヘリ内から撮影。



【写真⑪-3】ヘリで遊覧後、「どでか寿司」にて。この豪華さで超安値は超お得！

江蘇省ウィーク (5/20)



【写真⑫-1】江蘇省ウィーク開幕式



【写真⑫-2】中国館は古代の書物「竹簡 (zhú jiǎn)」がモチーフ！



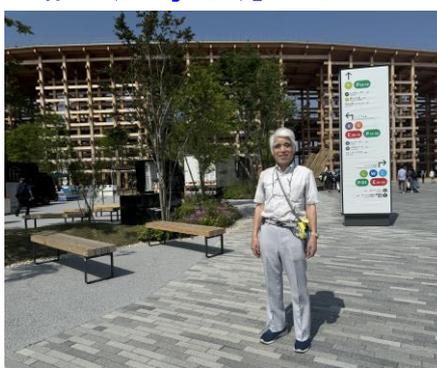
【写真⑫-3】公式キャラクター「ミャクミャク」前で！



【写真⑫-4】琵琶を弾く中国人美女とツーショット！



【写真⑫-5】お土産売り場にて。パンダと並んで！



【写真⑫-6】話題の周囲2kmの大屋根リングをバックに

福建省ウィーク (5/30)



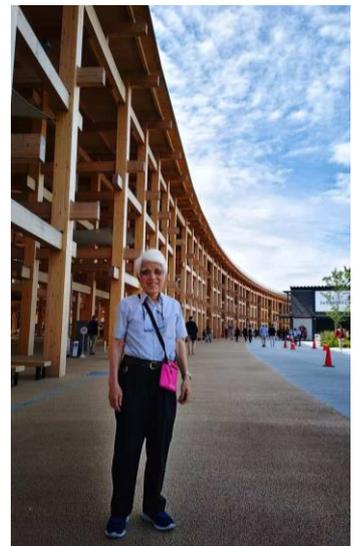
【写真⑬-1】福建省ウィークの看板前にて



【写真⑬-2】カンフーを取り入れた踊り



【写真⑬-3】人形遣いによる書の作成



【写真⑬-4】円形の大屋根リングをバックに蒙令華さんが見事な撮影術を！

各種イベント

王少鋒先生、笑音さん母娘と再会 (2024.12/30) (4頁・写真①)

ハンガリーの医大に留学中の笑音(えみね)さんと1年ぶりに再会し、母親の王少鋒先生とておいしいお寿司を食べながら貴重な近況報告の数々を！6年間の履修科目が膨大な上、一つでも落ちれば進学不可。日本の医大とは大違いだ。あと残り4年間もキツイが人並み以上の努力で、加油！

『NANKA YOKAI』～何かようかい To the World～を鑑賞 (1/30) (4頁・写真③)

1) 初代事務局長の宮本三恵子氏の復帰に伴って、「茂樹会」が復活！その企画として、弁天町の「世界館」で、ミュージカル・演劇・ダンスを融合させた「和製演劇サーカス」を鑑賞！
2) さまざまな妖怪が昔ながらのあそびや伝統的なしきたりを、壮大な音楽とパフォーマンスで伝える劇は面白く心温まるものだった。今後の妖怪の世界の広がりを期待し応援したい。

『Live Milonga Tiempo de Tango (タンゴの時間)』に参加 (2/9) (4頁・写真④)

アルゼンチンタンゴを楽しむダンスサロンのことを「ミロンガ」と呼ぶそうだが、事務所のすぐ近くのビルの地下にそんな大人の社交場があったとは！茂樹君の顔の広さにビックリ！生の演奏を聴き、ダンス愛好者によるサロンダンスを見るのは初めてだが、その姿にうっとり。楽しい2時間を満喫！

大阪・関西万博特集

大阪・関西万博会場と夢洲周辺を ヘリで遊覧 (4/26) (5頁・写真⑩-1~3)

1) 茂樹くん人脈で OGAWA AIR Co., Ltd の「4人乗りヘリ」に乗り、10分間のフライトを初体験！助手席の私は大興奮しながら写真撮影を。後部座席からは実況中継でビデオ撮影の音が！
2) 夜は、私の超お薦め店「どでか寿司」で、価格とお味の素晴らしさを宮本夫妻に披露。今回も満足の日を！

大阪・関西万博 江蘇省ウィーク開幕式 に出席！ (5/20) (5頁・写真⑫-1~6)

1) 年寄りにはチケットの入手は困難だが、日中友好協会の団体ツアーなら、さらに中国駐大阪総領事館のご招待の式典なら人気の中国館への入場もOK。中国館での各省ごとの週替わりの催し

中国駐大阪総領事館の 『2025年迎春レセプション』に出席 (1/22) (4頁・写真②)

経済不況も何のその！中国駐大阪総領事館主催の新年会は毎年超豪華だ。寧夏回族自治区の石嘴山市紹介と投資の呼び込みも立派。多くの友人との再会に感謝！

中国駐大阪総領事館広報アドバイザー 交代式とレセプションに出席 (3/12) (4頁・写真⑤)

「2022年中国・大阪映画週間」での滝田洋二郎監督との対談をきっかけに就任した広報アドバイザーのお役目を丸2年で交代。新疆ウイグルへの旅に参加できなかったのは残念だが、数々な企画に出会えたことに感謝！本音はもっとやりたかった！？

西天満お花見会に伊地知拓郎監督、 小川夏果プロデューサーも参加！ (3/29) (4頁・写真⑥)

天候や暑さと桜の開花の時期は運次第だが、今年の町内会お花見の設定は最高！同日は『郷 僕らの道しるべ』(23年)の伊地知拓郎監督と小川夏果プロデューサーも鹿児島から参加！何かと感性の鋭い2人だから、快晴の空の下でも有益な会話をタップリと！

大阪府日中友好協会 文化茶話会 主催のお花見会に出席 (4/5) (4頁・写真⑦)

1) 今年は大阪府日本中国友好協会文化茶話会主催のお花見に初参加。「毛馬桜之宮公園の現地集合」には戸惑ったが、無事合流！天気も最高！
2) 「満開の桜や 色づく山の紅葉をこの先いったい何度 みることになるだろう」と歌われた、竹内まりやの名

は期待感でいっぱいだ。

2) 「有朋自遠方來、不亦樂乎」。これが中学校の漢文の授業で習った「友あり 遠方より來たる、また樂しからずや」の中国語だ。古代から手紙(文書)として使われていた「竹筒(zhú jiǎn)」をモチーフとした中国館は見応え十分！公式キャラクターのミャクミャク前での写真撮影にも大満足！

3) 元衆議院議長で日本国際貿易促進協会会長の河野洋平氏や江蘇省長らの挨拶がタップリ詰まった開幕式終了後の炎天下での“大屋根リング”の散策はきつい。しかし風が吹けば心地良いし、リングは天井が高いからその下は風通しが良く快適だ。アメリカ館、日本館などの人気パビリオンの見学は無理だったが、これにて十分満足！

大阪・関西万博 福建省ウィーク開幕式 にも出席！ (5/30) (5頁・写真⑬-1~4)

曲中の名曲『人生の扉』に強く共鳴している昨今、今年も満開の桜に出会えたことに感謝！

『和・合』之音楽会を鑑賞 (4/8) シンフォニーホール (4頁・写真⑧-1、2)

1) 中国駐大阪総領事館と大阪府日本中国友好協会文化茶話会のお世話で世界初の演奏となる『詩意江南』を鑑賞。
2) スメタナ作曲の交響詩『モルダウ』は日本でも有名だが、中国発の交響組曲は珍しい。「山」「水」「城」「林」「和」の5楽章で構成された、和田薫氏作曲の交響組曲はお見事！太感謝了！

『江西省紹介映画会』(4/24)に参加！ テープカットも！ (4/25) (4頁・写真⑨)

すぐ近くにできた扇町ミュージアムの「扇町シネマ」に初めて入場！これも日中友好協会の案内で参加したが、友人の声かけによって、急遽私もテープカットに参加！中国パワーの広がりには驚きと感謝！

甲子園で阪神VSヤクルト戦を観戦！ (5/2) (4頁・写真⑩-1、2)

1) 年に一度は野球の聖地・甲子園へ！藤川球児のBS1での解説は超一流だったが、監督としての手腕はイマイチ！しかし、今日は村上頌樹が快調。7回で勝利を確信して自宅に戻り、TVをつけると、ちょうど完封劇が終了！
2) 6/3からは阪神と日ハムが激突するセパ交流戦が始まった。“野村の教え”を忠実に実践したことによって、弱小チームをここまでの戦うチームに高めた新庄采配に、藤川阪神は失速？そんな予感もするが、さて？

1) 江蘇省に続いて福建省ウィークの開幕式にも出席。VIP待遇での入場だから、式典前に予約なしでカタール館を見学。省長の挨拶に始まる式典では、カンフーを取り入れた踊りや、人形遣いによる書の作成等のパフォーマンスも満喫！こりゃスゴい！

2) 写真撮影は撮影者の技術によって雲泥の差が出るもの。円形の“大屋根リング”を左後方に配した、蒙令华さんの撮影手腕は報道馴れしているだけあってさすが！

3) 私のアモイ(廈門)旅行は09年11月。廈門都市職業学院での景観法の講義は有益だったし、廈門観光もコロンス島の観光も新鮮だった。鄭成功の像には感激し、すぐ目の前の金門島の存在と、その先の台湾にも思いを馳せることができた。そんな福建省は経済的に日本との縁が深いから商魂たくましく、あちこちで商談も！

<“コンクラーベ”により第267代ローマ教皇にレオ14世が選出。『教皇選挙(CONCLAVE)』と対比すれば興味津々!!>

1)第97回アカデミー賞の主演男優賞は『ブルータリスト』のエイドリアン・ブロディが受賞したが、『名もなき者』で見事なボブ・ディランを再現したティモシー・シャラメも、『教皇選挙』のレイフ・ファインズもほぼ横一線。誰が受賞しても納得だった。他方、『アノラ』の作品賞、監督賞を含む最多5部門受賞は意外。同作より『エミリア・ペレス』や『教皇選挙』の方が断然上だった。『教皇選挙』は作品賞・主演男優・助演女優・脚色等8部門にノミネートされていたが、残念ながら脚色賞のみに。

2)同作の日本での公開は3月20日、TOHOシネマズ系だが、最大客席の『WICKED ウィキッド ふたりの魔女』に対して、同作の観客席は最少。それは、こんなクソ難しい映画の観客は年配者ばかりで、多くの観客動員は無理と判断したからだ。ところが意外にも、公開直後の土曜日に満席で入れなかった私は翌日曜日の座席を確保したが、それも満席になっていたからビックリ。他方、フランシスコ教皇が4/21に死去したことに伴って「コンクラーベ」の実施が発表され、5/8の4度目の投票で第267代ローマ教皇にロバート・フランシス・ブレヴォスト氏が選出、レオ14世として即位すると、マスコミは一斉に同作に注目し、「コンクラーベ」による選挙システムや同作が描いた権力闘争の姿を詳しく紹介した。本作の異例のロングランと大ヒットは、映画公開と現実とのタイミングの良さによるものだ。

3)映画は勉強!それが私の持論だが、本作ではそれが特に顕著。コンクラーベ(教皇選挙)のシステムはもとより、ローマ・カトリック教会や枢機卿、シスター等の意義と役割の理解が不可欠だ。徳川幕府は約250年続いたが、コンクラーベは13世紀から750年以上続いているからすごい。マスコミが盛んに注目する「白い煙VS黒い煙」も興味深い。私は何よりもその選挙制度のあり方(奇妙さ!)に注目!A5,8頁にわたる映画評論を、私は①小スクリーンながら連日満席!なぜ本作が大人気に?②選挙は面白い!学生自治会長も大統領も教皇も選挙で!③ローマ教皇はどのように選ばれるの?その前提知識は?④108人の枢機卿の無記名投票で2/3以上!その細則は?⑤国連の構造と酷似!?有力な候補者は?ハプニングは?⑥第1回投票の結果は?2/3獲得に

向けた各候補の動静は⑦密室、閉鎖状況下での選挙活動は性善説に基づくもの?⑧“コンクラーベ”は、スキャンダルまみれの“根比べ”に⑨残された2人の有力候補は?自爆テロの影響は?、の小見出しで書いたので、その全文を是非読んでもらいたい(HP参照)(『シネマ57』36頁掲載)。

4)その「みどころ」は次のとおりだ。

コンクラーベとは1268年にルールを確立し、現在まで行われている互選による教皇選挙のことだが、その前提として、①ローマ・カトリック教会、②教皇、③枢機卿、④ローマ教皇庁、等の知識をしっかりと学ぶことが不可欠だ。次に、日本人には1970年代の「角福戦争」を代表とする自民党の総裁選挙がおなじみだから、それとの対比でコンクラーベの選挙システムや規制の少なさ(いい加減さ)をしっかりと押さえたい。定員約120名の枢機卿による秘密投票の互選で、投票総数の2/3以上の獲得者が出るまで何回でも投票を繰り返すシステムの是非は?永久に決まらないリスクをどうやって回避するの?また、高位聖職者の枢機卿に限って“買収”はあり得ないかもしれないが、どんな選挙活動が許され、許されないのかを、すべて神の意思と枢機卿の善意に委ねるのは如何なもの?ある候補者は「コンクラーベは戦争だ!」とまで言い放っていたが、そんなシステムで選ばれた人物が本当に世界の信徒数を誇るキリスト教の最大にして最古の宗教の一つであるローマ・カトリック教会のトップが務まるの?いろいろと考えさせられることの多い映画だが、小スクリーンながらも連日満席状態が続いていたことには少し元氣も!

5)枢機卿には保守派vs改革派、欧州系vs非欧州系等の対立がある。レオ14世は、アルゼンチン出身で改革派だった前教皇の側近ながら、議論の分かれる問題では発言せず、教会の結束を重視してきたらしい。しかし、世界中で混迷と対立が深まる昨今、また前教皇の改革路線によって教会の分断が深まった昨今、その舵取りは大変だ。そのお手並みは如何に?さらに新教皇はウクライナ戦争の仲介にも積極的らしいが、ミサでの祈りと政治的介入は別モノだから、その手腕に注目!

<戦後80年、昭和100年の今、『あゝひめゆりの塔』(68年)と西田昌司参議院議員の問題発言をどう考える?>

1)熱烈な“サクリスト”である私は、中・高生時代に三本立て55円の映画館で吉永小百合×浜田光夫の純愛コンビ作品を大量に鑑賞したが、舩田利雄監督が戦後20年、明治100年の記念作として作った『あゝひめゆりの塔』(68年)(『シネマ57』209頁)は封切館での鑑賞はできず、初めてDVD鑑賞したのは2020年1月だった。「ひめゆりモノ」は過去4作あり、吉永小百合、和泉雅子、浜田光夫らの日活青春スターが出演した同作はあくまで日活風だが、それなりに興味深かった。また、その鑑賞が2019年11月の沖縄旅行の直後だったため、沖縄特有のアブチラガマでひめゆり部隊が悪戦苦闘する悲惨さを実感することができた。

2)2025年は戦後80年、昭和100年の節目の年になる。シネ・ヌーヴォーはそれに合わせて、昨年12月「銀幕デビュー65周年 吉永小百合映画祭」を企画し、同作を上映した。そこで、私は『ガラスの中の少女』(60年)、『キューポラのある街』(62年)、『愛と死をみつめて』(64年)と共に、同作を映画館で初鑑賞!昨年は、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞が話題を呼んだが、22年2月に始まったウクライナ戦争も、ガザ地区を中心としたイスラエルVSハマス戦争も泥沼化したままで戦争状態は続いている。同作冒頭に見る1943年夏の沖縄はまだ平和だが、45年3/10の東京大空襲や3/13の大阪大空襲を考えれば、沖縄への爆撃と米軍の上陸作戦は必至!そんな中、沖縄師範の女子生徒たちが卒業を待たずに「ひめゆり部隊」に召集されると、4月から6月にかけて地獄のような毎日が始まり、悲惨な結末を迎えることに(『シネマ57』209頁)。

3)税理士で京都選出の自民党の西田昌司参議院議員は、私見では「政治とカネ」問題で唯一人有意義な発言を繰り返していた人。そんな彼が5/3、那覇市の講演で、ひめゆりの塔の沖縄戦に関する記述について、「日本軍が入ってきてひめゆり隊が死ぬことになった」「アメリカが入ってきて沖縄は解放されたという文脈で書いている」「歴史の書き換えだ」等と発言したからビックリ!

5/7には、「発言は、憲法改正の前提として、アメリカの占領政策を説明する趣旨」「日本軍が入ってきて戦争が始まり、アメリカが入ってきて戦争が終わり平和になった。そういう文脈、私が感じたのは。そういう文脈では、沖縄の方々は救われなかったのか」と弁明したが、こりゃ大問題だ。

4)私は沖縄旅行で、ひめゆり学徒隊の体験を伝えるひめゆり平和祈念資料館に続いて、糸数アブチラガマを見学した。アブとは深い縦の洞穴、チラとは崖、ガマとは洞窟のこと。沖縄戦ではアブチラガマ(自然の洞窟)が多くの民間人の避難場所になったが、同時にそこは日本軍の作戦陣地や野戦病院にもなったから、米軍の火砲が迫ってくる中、そこで軍人と同居することになった民間人の運命は悲惨なものに。約30分間にわたる糸数アブチラガマの見学は、70年間の生涯の中でも最大級の衝撃だった。だって、真っ暗な洞窟の中を懐中電灯1つだけで恐る恐る上り下りしながら見学(探検?)し、戻ってきたのだから。「滑らないように」と言われても、手すりのない滑りやすい足元では、最大級の注意を払っても何度かヤバかった。要所要所でのガイドの説明は当時の悲惨な状況をリアルに語りかけるもので、それを聞いているとアブチラガマの中はうめき声や悪臭で溢れてきた。食べ物・飲み物が少ないのは当然だが、こんな狭い洞窟の中で手術をし、大小便をしていたの考えると!そんな体験をした私は、同作後半に見る洞窟の中での「ひめゆり学徒隊」の奮闘には思わず涙が!

5)私は2015年3月、サンケイトラベルが「戦後70年特別企画」として実施した①海上自衛隊鹿屋航空基地史料館②知覧特攻平和会館③万世特攻平和祈念館をはじめとする「12カ所の戦跡」を訪れる2泊3日の旅に参加し感動した。そこで、戦後80年、昭和100年の今年は、兵庫県加西市にある「鶉野(うずらの)飛行場資料館」や戦闘機「紫電改」・艦上攻撃機「九七艦攻」の実物大模型を展示した戦史資料展示施設「soraかさい」等を見学に行く計画を立てている。そんな時代状況の中、沖縄戦の悲劇の歴史を正しく学び、「西田発言」の是非を考えるためにも、今年のお盆休み中には、皆様も是非『あゝひめゆりの塔』のDVD鑑賞を!

弁護士兼映画評論家 坂和 章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



(96年5月) (01年6月) (03年9月) (04年11月) (05年4月) (07年7月) (08年4月) (15年11月) (17年6月)

<実況中継シリーズ全4冊>



(17年6月) (23年1月) (12年4月) (00年7月) (02年9月) (04年6月) (06年9月)

<その他の著書>



(04年5月) (05年10月)

<コラム集>



(05年8月) (13年12月) (19年4月)

<名作映画シリーズ>



(10年3月) (10年12月) (19年3月) (20年5月)

<中国語の著書>



(09年8月) (12年8月)

<『シネマルーム』シリーズ 既刊全57巻>

